

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 8 巻第 25 号

第 25 週(6月16日～6月22日)

発行年月日:平成20年(2008年)6月27日

発行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

今週の感染症発生動向

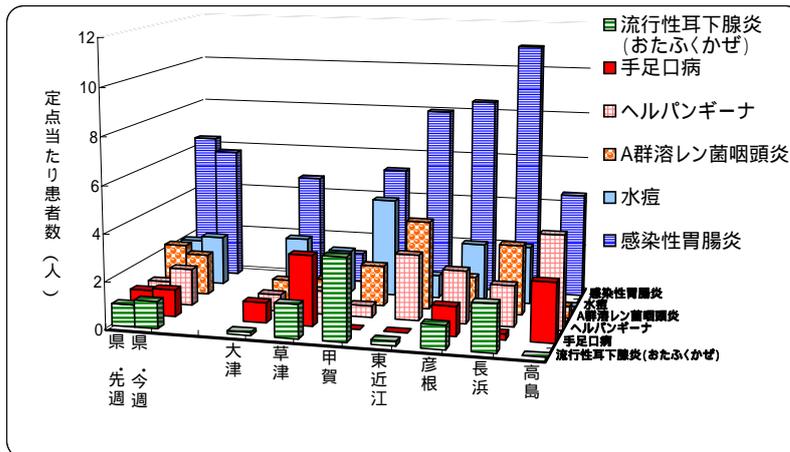
県内における麻しん患者の発生は4週連続! 今年になって9例目の腸管出血性大腸菌感染症の発生

定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は前週の報告数よりやや多くなっています。今週増加した疾患は水痘、手足口病、ヘルパンギーナ等で、減少した疾患はA群溶レン菌咽頭炎、感染性胃腸炎等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

「感染症発生動向調査に基づく感染症の警報・注意報システム」によると、咽頭結膜熱では大津および高島保健所管内で、A群溶レン菌咽頭炎では東近江保健所管内で**警報発生基準値を超えています**。また、水痘および流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)では甲賀保健所管内で**注意報発生基準値を超えています**(警報・注意報システムおよび基準値については今週の発生状況参照)。

全数把握対象疾患では、二類感染症の結核で10名、三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症で1名、四類感染症のレジオネラ症で1名、五類感染症の後天性免疫不全症候群で2名、破傷風で1名、麻しんで3名の届出がありました。

上位5疾患の発生状況(定点把握対象五類感染症、第25週、定点当たり患者数)

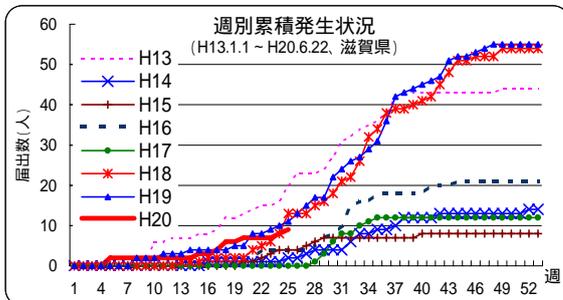


県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおり、感染性胃腸炎、水痘、A群溶レン菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、手足口病および流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の順に多くなっています。

水痘は彦根で、手足口病は草津で、A群溶レン菌咽頭炎は長浜で急増しています。また、感染性胃腸炎は長浜で先週よりかなり多くなっています。

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

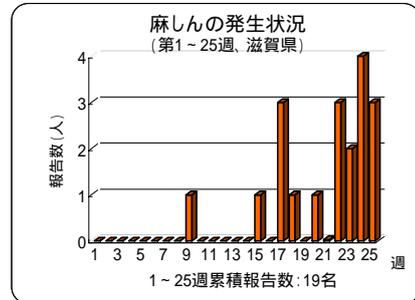
(平成13年～平成20年、滋賀県)



平成20年6月15日現在における届出数8名の内訳は、男性3名、女性6名、診断の類型は患者7名、無症状病原体保有者2名、血清型・毒素型はO157・VT1&VT2 6名、O157・VT2 1名、O145・VT2 1名、不明1名です。年齢は2歳1名、20歳1名、23歳2名、24歳1名、25歳1名、28歳1名、31歳1名、55歳1名です。

麻しんの発生状況

(平成20年第1～25週、H19.12.31～H20.6.22)



報告数19名の内訳は、男性10名、女性9名、病型は臨床診断例15名、検査診断例4名、年齢は0～4歳2名、10～14歳1名、15～19歳7名、20～24歳7名、25～29歳2名、ワクチン接種歴は1回目のみ接種2名、1回目および2回目とも接種なし11名、不明6名です。また、大津からの報告が9名と最も多くなっています。

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいますが、届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (25週)	累積報告数		平成19年報告数	
			滋賀 (25週)	全国 (25週)	滋賀	全国 ^(*)
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	結核	10	126	11,752	178	20,151
三類感染症	細菌性赤痢	0	0	123	^(*) 2	450
	腸管出血性大腸菌感染症	1	9	843	55	4,586
四類感染症	パラチフス	0	0	16	1	22
	E型肝炎	0	0	25	1	54
	A型肝炎	0	1	84	1	154
	デング熱	0	1	27	1	89
	マラリア	0	1	17	1	52
五類感染症	レジオネラ症	1	3	367	8	655
	アメーバ赤痢	0	3	401	15	781
	ウイルス性肝炎	0	3	102	2	231
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	72	4	148
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	64	1	96
	後天性免疫不全症候群	2	6	678	9	1,449
	ジアルジア症	0	1	35	1	56
	梅毒	0	1	380	2	714
	破傷風	1	2	44	0	88
	急性脳炎	0	0	96	2	216
	風しん ^(*)	0	1	216	-	-
麻しん ^(*)	3	19	9,631	-	-	

* 1: 平成19年の全国報告数は、平成19年に滋賀県で報告された疾患を対象としています。

* 2: 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含み増す。

* 3: 平成20年1月1日から全数把握対象疾患に変更。 - ; 定点把握対象疾患のため、全数報告数は未集計

全国における全数報告感染症の発生状況 - 第25週(6/16～6/22) -

一類感染症: 報告なし	四類感染症: つつが虫病	5例	五類感染症: 後天性免疫不全症候群	18例
二類感染症: 結核	レジオネラ症	23例	劇症型溶血性	
三類感染症: 細菌性赤痢	レプトスピラ症	1例	レンサ球菌感染症	1例
腸管出血性	五類感染症: アメーバ赤痢	13例	バンコマイシン耐性	
大腸菌感染症	ジアルジア症	1例	腸球菌感染症	2例
四類感染症: E型肝炎	梅毒	11例	ウイルス性肝炎	1例
AE型肝炎	破傷風	5例	風しん	3例
デング熱	急性脳炎	2例	麻しん	176例
ブルセラ症				

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。*疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(平成20年第20～25週、5/12～6/22)

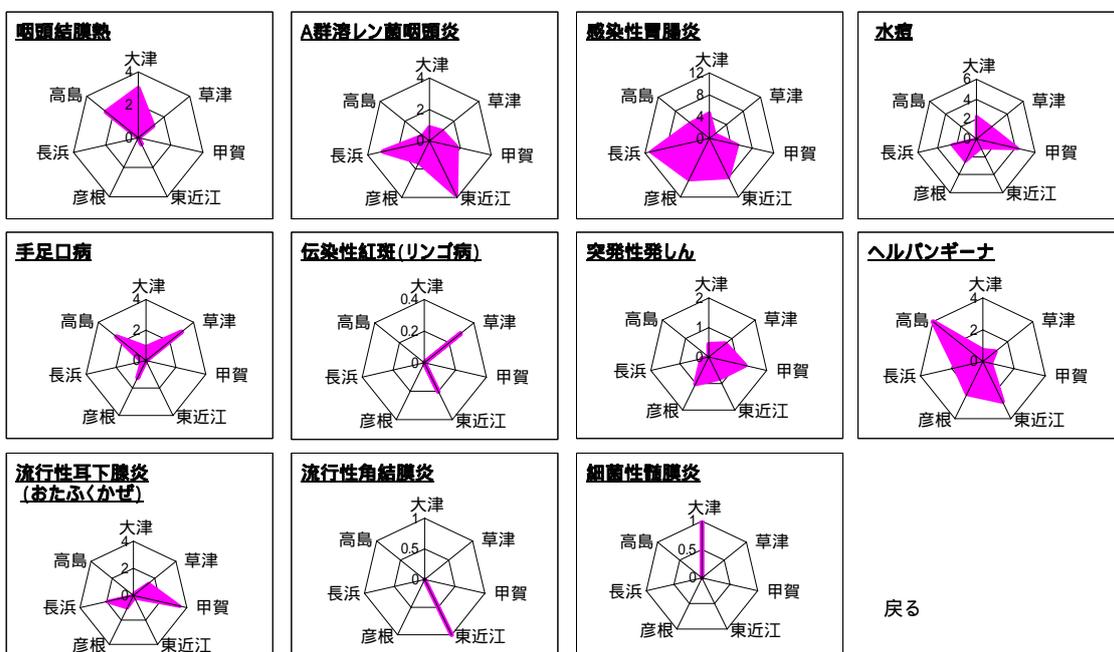
疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	20週		21週		22週		23週		24週		25週	
	(5/12～)	(5/19～)	(5/26～)	(6/2～)	(6/9～)	(6/16～)	21	22	23	24	25	
インフルエンザ	0.15	0.09	0.07	0	0.02	0						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱(プール熱)	0.64	1.00	0.88	0.94	1.03	1.09						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.73	2.21	1.88	2.36	2.15	1.76						
感染性胃腸炎	10.61	9.94	7.61	8.12	6.36	5.76						
水痘	1.94	1.70	2.82	1.64	1.94	2.15						
手足口病	0.39	0.42	0.58	0.67	1.06	1.15						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.06	0	0.03	0	0.03	0.09						
突発性発しん	0.48	0.42	0.55	0.33	0.36	0.67						
百日咳	0	0.09	0.06	0.06	0	0						
ヘルパンギーナ	0.06	0.30	0.27	0.30	0.97	1.58						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.79	1.33	0.97	1.03	0.94	1.15						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.25	0.25	0.25	0.25	0.50	0.13						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0.14						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0.14	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0.43	0	0.14	0	0	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第25週、6/16～6/22)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県全体)
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱(プール熱)	1.09	3.00	1.14	0	0.40	0	0	2.50	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.76	0.86	1.00	1.75	3.80	1.50	3.00	0.50	
感染性胃腸炎	5.76	4.71	1.29	5.25	8.00	8.50	11.00	4.50	
水痘	2.15	2.29	1.86	4.25	1.00	2.50	2.50	0	
手足口病	1.15	0.86	3.00	0	0	1.25	0.25	2.50	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0	0.29	0	0.20	0	0	0	
突発性発しん	0.67	0.43	0.71	1.25	0.80	1.00	0.25	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	1.58	0.71	1.00	0.50	2.80	2.25	1.75	4.00	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.15	0.14	1.43	3.50	0.20	1.00	2.00	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.13	0	0	0	1.00	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0.14	1.00	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	

■ は定点当たり患者数が先週より増加 ■ は警報発生中 ■ は注意報発生中

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況：

感染性胃腸炎-----県全体では先週より減少していますが、東近江および長浜では増加しています。特に長浜では先週よりかなり多くなっています。

流行性耳下腺炎-----甲賀では23週(6/2～6/8)以降、3週連続して注意報発生基準値を超えています。また、長浜では先週よりかなり多くなっています。

<<感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム>>

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに警報レベルおよび注意報レベルの基準値を設定し、その基準値を超えた時に流行発生警報(警報)あるいは流行発生注意報(注意報)という表現により流行状況を示しています。

流行発生警報

流行発生警報という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

流行発生注意報

流行発生注意報という表現により今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性がある、または現在も流行が継続している可能性があるという情報を提供しています。

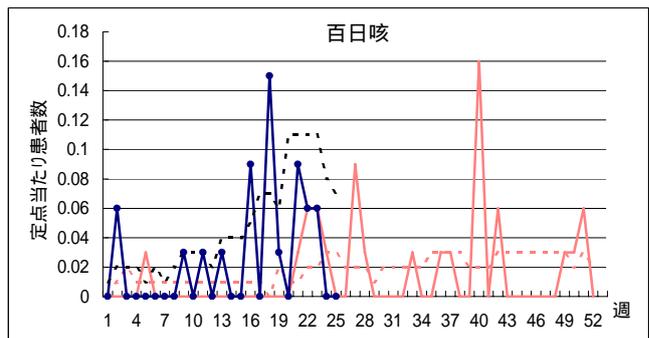
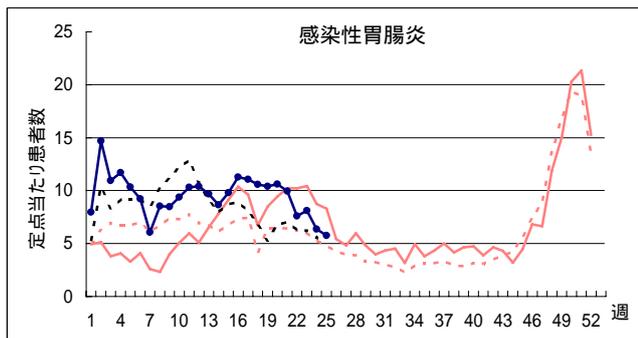
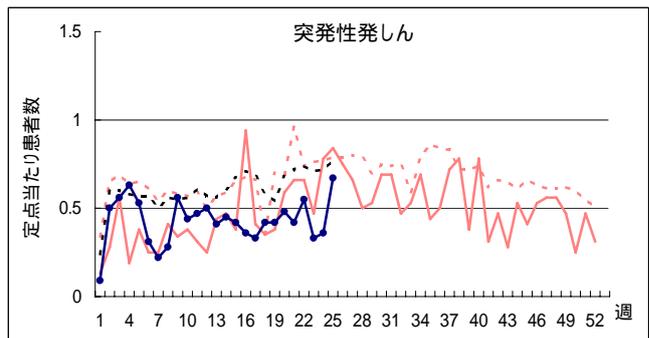
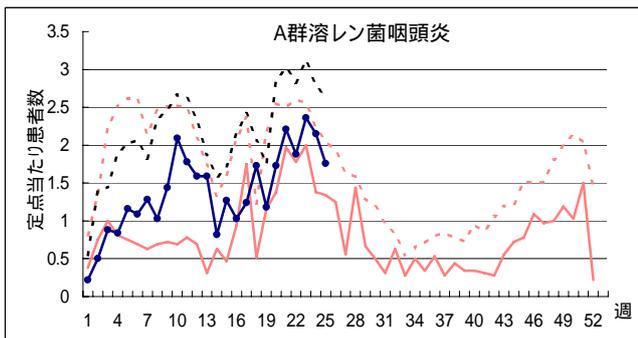
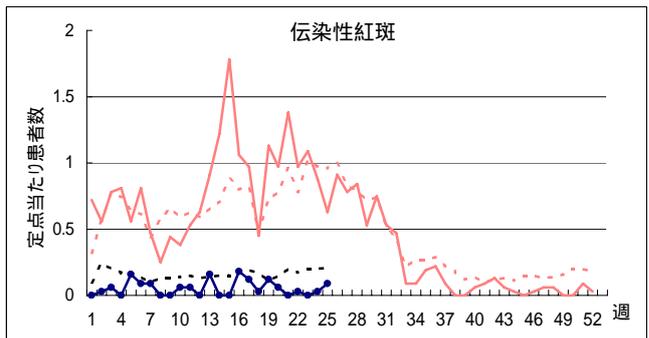
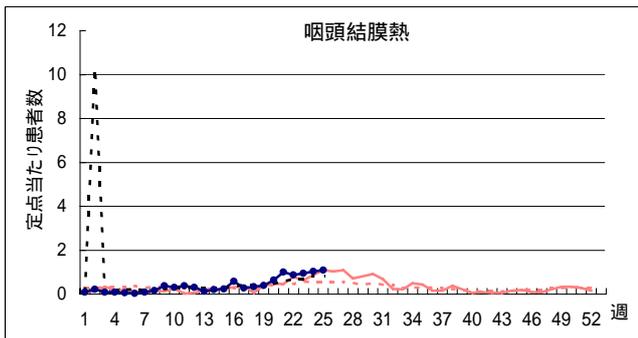
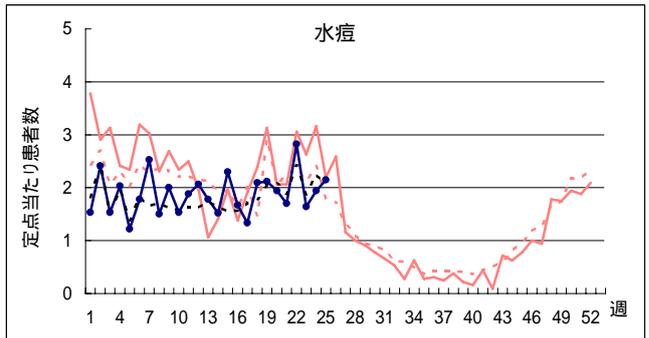
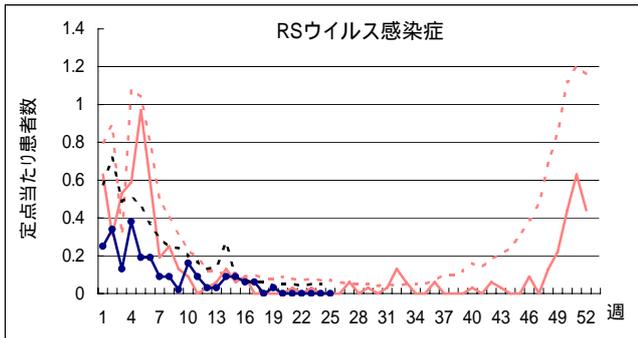
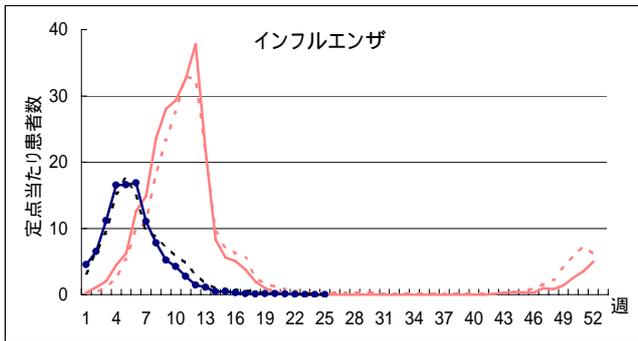
警報・注意報の基準値

対象疾患	警報		注意報基準値
	開始基準値	終息基準値	
咽頭結膜熱(プール熱)	2.0	0.1	-
A群溶レン菌咽頭炎	4.0	2.0	-
水痘	7.0	4.0	4.0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	6.0	2.0	3.0

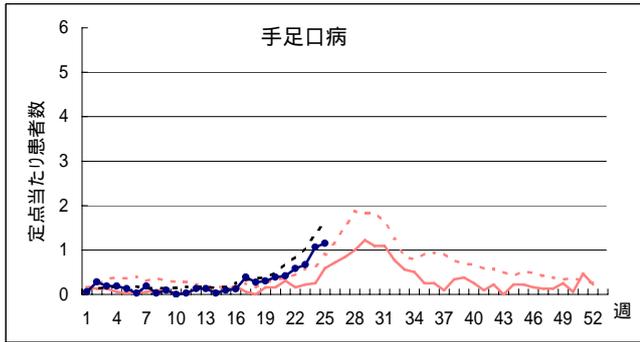
基準値は定点当たり患者数(人)

- は注意報の対象外

疾病別定点当たり患者数(平成20年第25週、H19.12.31～H20.6.22)



疾病別定点当たり患者数(平成20年第25週、H19.12.31～H20.6.22)



H19 { 滋賀 ————
 全国
 H20 { 滋賀 ●●●●●●
 全国

